

2019 年度 事業報告

公益社団法人 日本滑空協会

中長期(5年)計画

- ① 当協会調査では国内滑空団体所属会員総数は 3,000 人、公益財団法人日本学生航空連盟 OB 数は 10,000 人。当協会は国内滑空スポーツ統括団体として、全ての愛好家を考慮した施策を行う。また航空スポーツ発展のため、“空”の仲間である航空スポーツ諸団体と連携する。
- ② 滑空スポーツ振興として、“安全”と“楽しさ”を目標とする。
 “安全”:国内滑空クラブと密接に情報共有し、安全意識を高め、重大事故発生を防ぐ。
 “楽しさ”:滑空スポーツ愛好者の“夢”の実現を支援する事業を実施する。
- ③ 滑空スポーツ活動を基礎技術習得である場周飛行とローカルソアリングから、本来の活動である野外飛行を推進し、競技会振興を図り、日本滑空選手権を再開する。

2019 年度特記事項

*安全施策

- ・ 2015 年 6 月以後、その週に発生した事故を JSA 事務局より全国滑空団体に伝達し、週末飛行前のブリーフィングで紹介していただくことを実施している。
- ・ 2016 年 3 月のスピン墜落事故以後、スピンの座学を受講し、少なくとも初動までを体験した人に、申請によりスピンリカバリートレーニング受講章を発行、2019 年度末現在 480 名が受講。
- ・ 2019 年度には死傷者が発生する事故はなかったが、曳航索切れ落下による重大インシデントが 2 件発生した。
- ・ 滑空機事故・重大インシデント 注 MG:動力滑空機、SL:自力発航 運輸安全委員会集計

発生日付	機種	搭乗	場所	状況	死傷者
2019 4/29	DG500M 複 SL	2	萩・石見空港	エンジン不始動で低空進入着陸時機体損傷	なし
5/2	DG500 複	2	焼岳	不時着時機体損傷	なし
7/7	ロバン ASK21 曳航機 複	1 1	スカイポートきたみ	曳航中に索切れ索の落下	なし
8/27	SF25C MG	2	矢作川河川敷	離陸時機体損傷	なし
9/16	HK36TTC ASK21 MG 複	1 2	小松基地	曳航中に索切れ索の落下	なし
12/21	HK36R 複	2	松山空港	離陸後エンジン不調で空港に引き返し着陸	なし

*滑空スポーツ講習会(実技講習)EMFT 講習

前年度まで独立行政法人日本スポーツ振興センター、スポーツ振興くじ助成事業として学科講習会を開催していたが、2019 年度には新たに実技講習会を開催した。3 会場で、合計 32 名が異常姿勢からの回復トレーニングを受講した。(2.3 参照)

*日本滑空記章規程の見直し

操縦士実地試験実施細則の改訂をきっかけに、各章の位置づけと試験内容を見直し、改定を実施した。滑空試験員講習会を全国で 6 回開催し、改定の周知を図った。(2.2 参照)

＊機関紙 JSA インフォメーション

第 315 号(2018 年 7 月発行)から、スポーツ振興くじ助成事業として編集発行。吉岡名保恵氏を編集長に迎え、より充実した情報提供を目指し、若い愛好家に興味を持ってもらうよう努め、2019 年度には 3 回発行した。11 月発行の 319 号から誌面を全面的にカラー化した。印刷部数 800 部。(1.4 参照)

1. 滑空スポーツ統括普及に関する事業

1.1 各種外部委員会での活動

当協会は官公庁、航空界に対して滑空界代表として活動している。

- ・ 技量維持連絡会(事務局 JAPA, JSA 甲賀常務理事) 航空安全講習会企画運営の会議
- ・ 航空医学委員会(事務局 JAPA, JSA 甲賀常務理事)
- ・ 小型航空機等に係る安全推進委員会(事務局航空局 JSA 玉中理事)

1.2 滑空スポーツ関連の調査

国内滑空団体の会員、施設機材、活動の状況を調査。今年で開始 10 年目となる。

5 月始めに全国滑空団体に 2019 年度データ提供依頼を行い、いただいた回答を逐次集計中。

年度	回答 団体数	所属 会員数	内 女性数	25 歳 以下	各種 ライセンス数	滑空機 機体数	飛行 回数	飛行 時間
2018	35	2,907	279	833	1,453	322	57,090	16,873
2017	35	2,821	316	1,056	1,284	330	53,798	17,996
2016	35	2,726	277	1,016	1,104	296	56,429	15,847
2015	36	2,975	115	997	1,330	325	56,158	16,721
2014	33	2,572	260	926	1,018	307	49,368	14,099
2013	34	2,366	76	711	1,115	286	49,150	9,031
2012	42	2,686	73	746	1,202	311	56,335	14,498
2011	54	3,255	調査せず		1,429	317	45,235	9,399
2010	34	2,065			1,002	143	26,263	9,756

注:女性数および 25 歳以下愛好者数の大部分は大学生。

1.3 航空関係諸団体との連携

＊滑空団体との連携

- ・国内滑空団体にメールで各種情報提供を行い、安全性向上に努めている。
- ・クラブミーティングを通じて滑空界全体の意向を理解し、活性化を醸成する。(日口常務理事)
2019 年度は 11 月、中部航空連盟が幹事となり浜松市で開催された。当協会会員、非会員を含む多くの滑空スポーツ愛好家の情報および意見を当協会事業に反映するよう、拡大して行く。

＊FAI (IGC)

R2 年 3/6-7 ブダペスト(ハンガリー)で総会

IGC 加盟 30 か国が集まり、規程(Sporting Code)、国際競技会、記録等について審議した。
甲賀常務理事が Delegate として出席した。

*航空スポーツ団体との連携

- ・さいたまスカイスポーツフェスタ(SSF)2019 活動(SSF2019 事業は実行委員会で実施)
気球、ハング・パラ、自作航空機、マイクロライト、フットローンチなど航空スポーツ全体で実施。
10/20 に妻沼滑空場で開催が予定されていたが、台風 19 号のため中止。
2020 年は 10/25 開催予定。SSF 実行委員長 井上常務理事。

*航空局交通管制部管制課との意見交換

- ・2020 年 2/18 羽田標準到着経路変更に対する北関東空域でのグライダーVFR飛行への影響についての状況確認と意見交換を実施。

*自衛隊との空域会議

- ・2020 年 2/27 関東西部地区空域調整会議 於航空自衛隊入間基地 コロナ自粛で中止。

*(一財)日本航空協会「空の日」表彰、FAI 賞伝達 9/20 於航空会館

- ・FAI エアースポーツメダル 吉田 正
- ・日本記録樹立 (同時に FAI オセアニア大陸記録として認定)
市川 展 D0 級一般 自由三角コース記録 1116km
市川 展 D15 級一般 自由三旋点距離 1148.2km

1.4 情報発信:各種広報手段について内容充実、編集メンバー強化策の実施

*ホームページ運営 担当:丸山理事

現在の協会ホームページは 2017 年に刷新し、内容の充実に伴い訪問者数も増え 2019 年は、のべ 37,000 名の訪問者(前年比+34%)を数えた。メール・SNS によるホームページ更新通知は約 540 名の方に登録いただき、航空局からの通知や各種イベント情報などの最新情報をタイムリーに受け取ってもらっている。

*機関誌 JSA インフォメーション 発刊 (7,11,3 月、全 3 回 発行部数 800 部)

特記事項で報告のとおり。会員でない滑空記章申請者に対して最新号を贈呈している。

2. 滑空スポーツ愛好者育成に関する事業

2.1 指定航空従事者養成施設

*制度運営 設置者:後藤昇弘会長、管理者:鈴木康一元常務理事

事務局長:玉中宏明理事、監査人:谷口監事

・指定養成連絡会議 R2 年 2/8(土)航空会館 本部および訓練所間の連絡会議

・養成実績

期	訓練所	訓練期間	実日数	入所	修了	備考
第 1 期	長野	5/26-6/18	6 日間	2 名	2 名	
第 2 期	宝珠花	8/3-8/25	7 日間	1 名	1 名	
第 3 期	長野	10/29-11/17	7 日間	2 名	2 名	
第 4 期	中航連			4 名		自衛隊の都合により中止
第 5 期	板倉	2/8-3/21	6 日間	1 名	1 名	
第 6 期	関宿	2/23-3/21	6 日間	2 名	2 名	
第 7 期	静岡	2/15-3/15	8 日間	1 名	1 名	
第 8 期	長野			3 名		コロナ自粛により中止
第 9 期	宝珠花			3 名		コロナ自粛により中止
合計				19 名	9 名	

2.2 日本滑空記章制度

*運営:事務局

FAI 公式立会人・日本滑空記章試験員 任期 2018/1/1-2020/12/31

試験員種別	人数	備考
FAI 公式立会人	45	FAI 公式立会人資格のみ保持 1 人
日本滑空記章試験員	69	
合計	70	

滑空記章発行数

滑空記章種別		発行数	FAI 章		銀章	7
国内章	A 章	88	FAI 章	Diamond 章	金章	1
	B 章	76			300km	1
	C 章	64			500km	1
	銅章	55			5000m	0

*日本滑空記章規程の見直し

各章の位置づけと試験内容を見直し、10/1 付けで日本滑空記章規程、日本滑空記章試験員規程を改定して、日本滑空記章細則を新設した。これにより、報告書様式も改めた。滑空試験員講習会を全国で 6 回開催し(2.3 参照)、改定の周知を図った。

*(仮称)30km章

日本滑空記章銅章と国際滑空記章銀章(50km)との間のギャップが大きいとの意見があり、このギャップを埋めてクロスカントリー飛行の最初の一步の励みとなるステップとして(仮称)30km 章のトライアルを企画、実施した。集約した意見を反映した新しい認定制度を検討する。

2.3 滑空スポーツ講習会

独立行政法人日本スポーツ振興センター、スポーツ振興くじ助成事業として実施。

(事務局、日口常務理事、各地で会員にスタッフとしてご協力いただいた)

航空局と打合せ、航空安全講習会について航空局名義後援を受ける。9/9 甲賀常務理事

技量維持連絡会 日本航空機操縦士協会, AOPA-J, 日本飛行連盟、全日本ヘリコプター協議会との航空安全講習会打ち合わせ会議

1/16 午後 2020 年度方針討議 JAPA 会議室 甲賀常務理事、佐志田理事 出席

*実技講習会 EMFT 講習(異常姿勢からの回復トレーニング)

9/14-15 滝川スカイパーク 講師櫻井玲子 9 名参加

11/16-17 関宿滑空場 講師櫻井玲子 11 名参加

10/27-28 板倉滑空場 台風 19 号による滑走路冠水で延期のため、下記で実施。

1/4-5 実施 講師櫻井玲子 12 名参加

*日本滑空記章試験員講習会 講師:甲賀常務理事、佐志田理事

FAI 公式立会人、日本滑空記章試験員の研修会、航空安全講習会会場で実施

11/30 東京 11 名受講

12/7 仙台 6 名受講

12/14 長野 9 名受講

- 2/9 東京 17名受講
- 2/16 福岡 10名受講
- 3/7 札幌(オンライン開催) 4名受講

* 航空安全講習会

R1 年度より当協会滑空機特化講習会として、独自資料を使い、航空局の名義後援をいただいて実施。

- 11/30 東京 54名受講 講師 浦松香津子、山木宏
- 12/7 仙台 26名受講(含東北大学生10名) 講師 浦松香津子、櫻井玲子
- 12/14 長野 32名受講(含信州大学生9名) 講師 佐志田伸夫、日口裕二
- 1/25 大野 56名受講 講師 浦松香津子、日口裕二
- 2/9 東京 44名受講 講師 浦松香津子、日口裕二
- 2/16 福岡 63名受講 (含学連西部地区大学生56名) 講師 浦松香津子、丸山毅
- 3/7 札幌 コロナ自粛のため中止 申込受講14名、聴講6名

* インストラクターマニュアル委員会

我が国での滑空機操縦トレーニングに関する総合的なマニュアルを作成するべく執筆を進めている。BGA(British Gliding Association) のインストラクターマニュアルを参考に、国内事情に適合した日本インストラクターマニュアル(JIM)初版をR2年度中に発行予定。

3. 滑空スポーツ競技会に関する事業

3.1 競技会主催

現在実施していない。将来、日本滑空選手権を開催し、その中から世界グライダー選手権出場選手を選び、ナショナルチームとして参加することを目標とする。

3.2 競技会後援:協会規程に基づいて、国内滑空競技会の後援を行う。(事務局)

5/3-5/5 第15回ローズカップ 於大野滑空場

団体:優勝 アルテアクラブ、2位 プチワーカーズ、3位 チーム夢追人

個人:最優秀選手、2位 瀬瀬裕俊、3位 小波津俊之

団体優勝および最優秀選手に滑空奨励賞授与

7/26-28 第52回全日本高等学校滑空選手権大会 於妻沼滑空場

団体:優勝 航空山梨1A 最優秀選手: 嶋村俊介(慶應義塾高等学校)

開会式閉会式 甲賀常務理事、吉田監事 出席

団体優勝および最優秀選手に滑空奨励賞授与

8/10-16 第23回原田覚一郎杯大学対抗グライダー競技大会

団体:優勝 学習院大学、2位 青山学院大学Aチーム、3位 日本大学Bチーム

個人:最優秀選手 小林真程馬(関東学院大学)、2位 中川羽韻(学習院女子大学)、
3位 細川均(日本大学)

閉会式 甲賀常務理事出席 団体優勝および最優秀選手に滑空奨励賞授与

8/10-14 霧ヶ峰講習会 於霧ヶ峰滑空場 名義後援

8/22-27 第37回久住山岳滑翔大会 久住滑空場

基本滑翔競技 最優秀選手 小原知行(信州大学)

名義後援 団体、最優秀選手に滑空奨励賞授与

8/31-9/6 第22回東京六大学対抗グライダー競技会 於妻沼滑空場

団体:優勝 慶應義塾大学、2位 早稲田大学、3位 東京大学
 個人:最優秀選手 山路優輝(慶應義塾)、2位 麻生晃平(東京大学)、
 3位 古田一輝(早稲田大学)

開会式閉会式 甲賀常務理事、吉田監事 出席
 団体優勝および最優秀選手に日本滑空協会賞授与

9/7-13 第22回全日本学生グライダー新人競技大会 於木曾川滑空場

団体:優勝 慶應義塾大学、2位 法政大学 3位 明治大学

個人:優勝 市川達也(慶應)、2位 矢島康太郎(慶應義塾)、3位 辻井駿佑(京都大学)

開会式 吉田監事、閉会式 甲賀、井上善雄常務理事出席

団体優勝および最優秀選手に日本滑空協会賞授与

9/21-23 ふくいプテラカップ 2019 於福井飛行場

開催前に主催者により中止。

2/23~3/1 第49回早慶対抗グライダー競技大会 於妻沼 開会式から競技会を何日か実施したが、結局主催者により中止。

2/28~3/3 国立七大学対抗運動会 航空の部 於関宿滑空場 開催前に主催者により中止。

3/10~3/15 第60回全日本学生グライダー競技大会 於妻沼滑空場

開催前に主催者により中止。

3.3 海外選手権への選手派遣(推薦、支援)

1/3-18 Lake Keepit(豪) 第10回女子世界グライダー選手権 市川朱美(Standard級 LS-8)
 出場 9位/16選手

4. 法人事業

4.1 会員

*滑空スポーツ愛好者の高齢化が進み、会員の平均年齢が上がっている。40代、50代が減少し、一方若年層の会員入会が少ないため、世代交代がスムーズに行われていない。

会員数が500名を切るまでに減少している。

年度	2015	2016	2017	2018	2019
団体会員	4	4	4	4	4
個人正会員	546	514	500	493	485
合計	550	518	504	497	489

4.2 法人の体制強化、事務局業務の整備

*公益社団法人化後ほぼ5年半経過し、大過なく運営している。

会員数減少に伴う収入減に対応して、事務局稼働日削減、各種連絡のメール化などにより経費削減を図るとともに、助成金による収入により収支を均衡させている。

4.3 会議

5/11 2019年度第1回理事会 於航空会館 202 出席役員11名、欠席役員1名
 議案:2019年総会議案、その他

6/1 2019年度総会 於TKPカンファレンスセンター11H会議室

出席:会員および役員13名、欠席役員2名 2018年度決算報告承認など

2/8 2019年度第2回理事会開催 全役員出席 2020年事業計画および予算決定

以上